

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>徳田橋架け替えの早期完成に関する要望</p> <p>一般県道大ケ生徳田線は、国道4号と国道396号を連絡する主要幹線道路であるとともに、矢巾町、盛岡市、紫波町を含め広域的に交通渋滞の緩和や産業の振興など相互連携を図るため重要な役割を担う路線となっております。</p> <p>近年は国道4号、国道396号の整備に伴い、本路線の果たす役割は益々増大しており、このことに対応すべく国道4号から徳田橋手前までの区間については整備が完了しておりますが、徳田橋並びに国道396号までの区間が未整備となっております。</p> <p>特に徳田橋につきましては、幅員も狭隘で老朽化による損傷も著しく、周辺市街地の整備による交通量が増加傾向にある中、円滑な自動車交通を阻害している状況であります。</p> <p>このことから県におかれましては、緊急地方道路整備事業（地域密着型）で一般県道大ケ生徳田線について平成23年度に事業採択を受けましたことに対しまして衷心より感謝申し上げます。</p> <p>徳田橋架け替え事業につきましては、現在、用地測量、物件調査が完了し本年度から用地補償等の業務を実施し平成32年の徳田橋の供用を目指しているところであります。</p> <p>本路線における自動車交通は、平成19年4月の岩手医科大学矢巾キャンパス完成以降、薬学部の開学、医学部・歯学部の移転、平成31年4月の大学附属病院の移転計画、看護学部の開設計画、県立療育センター及び盛岡となん支援学校の移転改築整備の計画などがあるほか、平成24年にはドクターヘリの運航、県内災害医療の中核拠点となる災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟が完成するなど緊急車輛の交通も併せ、今後著しい交通量の増加が予想されるものであります。</p> <p>つきましては、安全で円滑な交通の確保を図るため、徳田橋の架け替えと本路線の未整備区間の整備が急務でありますので、附属病院の開院時期の平成31年4月までに完成供用していただきますよう特段のご配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>徳田橋及びその前後の未整備区間は、幅員狭小で大型車の円滑な交通に支障をきたしていることや、徳田橋が老朽化していることに加え、岩手医科大学附属病院等が矢巾町に移転することに伴い交通アクセスの利便向上を図る必要があることから、平成23年度に事業着手し、昨年度まで基礎地盤調査や景観検討、道路及び橋梁の詳細設計、用地測量、補償物件調査等を進めてきたところです。</p> <p>平成26年度は、早期の橋梁工事着手を目標に用地買収、物件補償を進め、引き続き整備推進に努めていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一級河川岩崎川基幹河川改修事業の整備促進に関する要望 本町を縦横断する一級河川岩崎川、太田川、芋沢川の基幹河川は、平成4年度に基幹河川改修事業として国の事業認可を受け、以降、平成25年度末には事業費ベースで41.2%の進捗率で河川改修事業が進められております。</p> <p>県都盛岡市と隣接する本町は、近年、市街化区域の急速な整備から人口増加に顕著なものがあり、町立小中学校、県立高等学校、県立産業技術短期大学校等、教育施設の整備が進んでいるほか、矢幅駅を中心とする矢幅駅周辺地区画整理事業区域には大型ショッピングセンターや住宅地が形成され、中心市街地として整備が進んでおります。また、県内医療施設の中核である岩手医科大学の総合移転事業においては、平成19年4月に矢巾キャンパスが完成し、更には附属病院等の施設が順次建設される計画となっております。雨水流出量が今後とも増大することが想定されております。</p> <p>平成25年8月9日の大雨・洪水を受け、岩崎川に関しましては一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業として平成26年度から事業採択となり整備されることとなっておりますが、太田川、芋沢川につきましても過去に何度となく河川の氾濫による越流や河川施設に被害を受け、住宅地の浸水や農地への被害が発生し、住民生活に支障をきたしております。</p> <p>このことから、町民の生命と財産を守り、安全・安心なまちづくりを進めるため、本河川基幹改修事業の整備促進を図られますよう特段の御配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>岩崎川は、平成4年度から河川改修事業に着手し下流側から順次河道掘削、築堤、護岸及び橋梁等の工事を進め、北上川合流点から芋沢川合流点まで5.3km区間が完成しています。</p> <p>芋沢川合流点から県道不動盛岡線まで約2.64kmについては、床上浸水対策特別緊急事業として5年間で整備します。</p> <p>芋沢川については、これまでどおり広域河川改修事業により実施します。芋沢川で浸水被害のあった薬師神社付近については、農業用施設の堰の改修を検討中で早期に対応していきたいと考えています。</p> <p>太田川についても芋沢川と同様に広域河川改修事業により実施します。昨年のも豪雨での被災箇所については、平成26年度中に復旧する予定です。</p> <p>今後、矢巾町をはじめ関係機関と連携を密にして早期の整備に取り組んで参ります。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業の整備促進に関する要望</p> <p>県都盛岡市と隣接する本町は、市街化区域の急速な整備から人口増加が顕著であり、市街化区域整備と都市環境整備は一体となった整備を進めなければなりません。市街化区域の整備が急速に進み、その雨水排水先として町の中央部を流れる一級河川岩崎川は特にも重要な役割を担っております。</p> <p>この、本町及び紫波町を縦横断しております岩崎川につきましては、東北本線までを事業区間とする一級河川岩崎川基幹河川改修事業により平成4年度に国の事業認可を受け河川改修事業が進められておりましたが、平成25年8月9日の大雨・洪水では、岩崎川橋、下海老沼橋から越流し、また河川堤防の決壊により、周辺住宅地の床上、床下浸水や、農地への冠水など大きな損害を与え、特にも下海老沼橋からの越流については、市街地中心部へ流入し住民生活に支障をきたす甚大な被害をもたらしました。</p> <p>このことから、県におかれまして一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業による整備をご検討いただき、平成26年4月に事業採択されたことに対しまして衷心より感謝申し上げます。これにより、東北本線上流約1.5kmを延伸した区間を、スピードアップした緊急整備が図られることと期待いたしますが、町民の不安はいまだ癒されていない状況にありますことから、町民の生命と財産を守り、安全・安心なまちづくりを進めるため、一刻も早い浸水対策特別緊急事業を整備促進していただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>平成26年度から着手する岩崎川の床上浸水対策特別緊急事業の実施にあたっては、①JR上流部の用地買収、家屋等の物件補償、②JR下流部の左右岸堤防高さの相違についての解消、③橋梁架け替え、頭首工の改修、④土捨場の確保等の課題がありますが、矢巾町をはじめ関係機関と連携を密にして課題解決を図りながら早期整備に取り組んでまいりますのでご協力をお願いします。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>(仮称) 矢巾スマートインターチェンジ設置に伴うアクセス道路整備に関する要望</p> <p>本町は、県都盛岡市に隣接し広域都市圏の都市機能の一翼を担い、これまで着実に町勢が発展して参りました。現在では、J R矢幅駅の東西でそれぞれ施行している中心市街地の土地区画整理事業【矢幅駅西地区、矢幅駅前地区】や、北東北の物流拠点である岩手流通センターの機能拡大のための土地区画整理事業【広宮沢第二地区】により、住宅及び業務系の用地を整備し市街地形成を図り活性化に寄与しているところであります。また、県民医療の中核を成す岩手医科大学は、平成19年4月に薬学部の新設とともに開設した矢巾キャンパスが完成し、平成23年には医学部・歯学部の移転、平成24年にはドクターヘリの運航が開始されたほか、県内災害医療の中核拠点となる災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟も完成するなど被災地支援活動の拠点施設としても注目されております。更に大学附属病院の建設、看護学部の開設も順次整備することとされており、平成31年4月の開院を計画している状況であります。更には、同敷地内に岩手県立療育センター及び岩手県立盛岡となん支援学校の移転整備も進められており、平成29年度開校予定となっております。</p> <p>このように現在展開しているまちづくりは、いずれも町民はもとより町全体の需要を充足するためのものであるとともに、県内全域や北東北を視野に入れた広域的な都市機能を整備しているものであり、時間や距離の短縮、安全性及び利便性が求められております。また、岩手医科大学附属病院の移転に伴う救急搬送や災害時における緊急輸送など、町内における道路事情は刻々と変化するものと容易に推測されるところであります。</p> <p>これらを踏まえ、平成20年度から国幹道である東北縦貫自動車道への連結について検討し、平成24年度には地区協議会を設立し、平成25年6月11日付けでスマートインターチェンジの連結許可をいただき、平成30年3月完成を目指し事業を進めております。併せて、スマートインターチェンジと主要幹線道路を結ぶ町道につきましても、安全かつ円滑にアクセスできるよう町道整備が必要不可欠であり、</p>	<p>(仮称) 矢巾スマートインターチェンジについては、既存の高速道路の利便性を高め、県民の安全で安心な暮らしを守り、活力ある地域社会の形成を図るために必要不可欠なものです。そのため、必要な予算を確保するよう国に要望しており、今後も貴町と連携を図りながら、整備促進を図られるよう国に対し要望していきます。</p> <p>また、上り線料金所から一般県道不動盛岡線までの接続道路については、平成25年度に事業着手し、今年度は道路詳細設計、用地測量、補償物件調査を進め、貴町と連携を図りながら事業用地を確保し、整備推進に努めていきます。</p> <p>なお、矢巾スマートIC周辺道路のうち町道安庭線と県道の交差点については、今年度、右折レーン設置のための調査・設計を実施することとしています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>今年度から測量調査設計に着手しているところであります。</p> <p>町中心部から近く、利便性に優れた矢巾パーキングエリアにスマートインターチェンジが整備されることにより、高速道路利用者の利便性向上はもとより、物流の効率化や企業誘致による地域産業の活性化、岩手医科大学附属病院・高度救命救急センターまでのアクセス性向上が期待できるとともに、矢巾町及び周辺地域を含めた広域の活性化に大きく寄与するものと期待できます。</p> <p>つきましては、流通業務や緊急時の車輛の交通増加が見込まれる広域的かつ大規模な事業であること、また、周辺町道の整備には膨大な事業費が掛かることなどから、本町における厳しい財政状況をご賢察頂き、町道区間のアクセス道路整備に関しまして、岩手県からの強力な支援協力を賜りますよう特段のご配慮をお願い申し上げます。</p>				

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一般国道46号「盛岡西バイパス」の主要地方道上米内湯沢線以南への南進整備に関する要望</p> <p>一般国道46号「盛岡西バイパス」は、一般国道106号と連絡し、秋田市～盛岡市～宮古市を結ぶ地域連携軸の形成、盛岡都市圏西側の環状道路の一部の機能を担う重要な路線となっております。</p> <p>また、一般国道4号は東日本大震災以降、三陸沿岸地区の支援においても基幹となっている路線であり、県内各地から盛岡都市圏への救急搬送や物流の面でも重要な役割を担う路線であります。</p> <p>しかしながら、一般国道4号の主要地方道上米内湯沢線以南においては、慢性的な渋滞が発生しているとともに平成30年度には、三次救急医療も担う岩手医科大学附属病院が移転する予定となっており、更に交通量の増加が見込まれ渋滞の発生が懸念される状況となっております。</p> <p>つきましては、国道4号の混雑緩和と県内地域医療の中核を担う医療機関へのアクセス確保を図るため、一般国道46号「盛岡西バイパス」の主要地方道上米内湯沢線以南への延伸についてご配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>一般国道46号「盛岡西バイパス」は、盛岡都市圏の交通を円滑にし、都市環境を改善するなど都市機能を高めるものであることから、主要地方道上米内湯沢線以南への南伸の早期事業化について国に対し要望していきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>乳幼児医療費助成の対象年齢拡大及び現物給付化に関する要望</p> <p>医療費助成制度は、医療費の経済的な負担を軽減するとともに、利用者が安心して必要な医療が受けられるよう全国の自治体で実施されています。</p> <p>制度内容については、各市区町村単独による対象年齢の拡大や所得制限の撤廃を実施し、より充実した助成制度を行っているところです。</p> <p>本町においても、医療費の自己負担軽減、所得制限の撤廃を単独で行っておりますが、町民からさらなる制度の拡充を求められております。</p> <p>給付方法については、全国の過半数の自治体が現物給付方式を導入しており、特に東北では岩手県以外は全ての県が導入している状況です。現物給付方式のメリットは窓口での支払いに上限があることで、より安心して受診でき、疾病の早期発見、早期治療につながります。</p> <p>よって、岩手県統一による医療費助成制度の拡充（助成対象拡大、所得制限撤廃）を要望するとともに、国に対して現物給付方式に対する国民健康保険の国庫負担金減額調整措置の廃止を要望していただくようお願い申し上げます。</p>	<p>本県の乳幼児医療費助成制度について、対象者の範囲等を拡充した場合の県費負担額が次のとおり増大するものと見込まれることから、直ちに対象を拡充することは、現在の厳しい財政状況から考えると、困難であると考えています。</p> <p>しかしながら、医療費助成制度は市町村と共同で運営していることから、引き続き市町村の意見を伺いながら、制度のあり方について検討していきます。</p> <p>○医療費助成制度の拡充に要する県費（助成対象を中学3年生まで拡大した場合） （対象年齢の拡大）約6億円 （所得制限の撤廃）約3億5千万円</p> <p>現物給付した場合の減額措置の撤廃については、毎年度、県として国に要望しているところであり、今後も引き続き国に対して要望していきます。</p> <p>なお、本県の全ての医療費助成制度を現物給付化した場合、国庫支出金に係るいわゆるペナルティの額は、粗い試算ですが、約6億8千万の減額と見込まれ、昨年7月に、県内各市町村に対して現物給付化に対する考え方を調査したところ、「現物給付は望ましいが、減額措置が存続されている状況では、厳しい財政環境の下、現物給付化は慎重に考える必要がある」との意見が大勢であったことから、直ちに給付方法を現物給付とすることは難しいものと考えます。</p>	盛岡広域振興局	保健福祉環境部	C

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>経年劣化施設（煙山ダム）の早期整備に関する要望</p> <p>煙山ダムは、昭和43年3月に国営土地改良事業（農水省直営事業）により、洪水調節及び用水供給の両面の機能を有するダムとして整備されておりますが、防災事業の受益面積が1,471.1ha、かんがい事業の受益面積が68.3haであることから、防災機能を主として造成された施設となっております。なお、国有施設である煙山ダムの管理運営につきましては、当初は鹿妻穴堰土地改良区が担っておりましたが、防災事業の側面が強いこと等から、平成11年4月1日から本町への管理移管がなされているところであります。</p> <p>本ダムは竣工から46年が経過し、ダムの管理事務所や堤体等の施設において、亀裂や腐食等の劣化が著しくなってきました。特にも、平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降に多発する地震に加え、「平成25年8月9日の大雨・洪水」が発生したことから劣化がさらに進行し、議会や地域住民から安全性が危惧されている状況であり、整備の早期着工及び警報設備の設置等について、国による主体的な整備が図られますよう国に対する要請について、特段のご支援をお願い申し上げます。</p>	<p>煙山ダムについては、東北農政局北上土地改良調査管理事務所において、平成23年度から国営施設機能保全事業（施設長寿命化検討調査）「盛岡南部地区」により機能診断・長寿寿命化計画策定を行っており、東日本大震災を教訓としたダム及び頭首工、西部用水路等の基幹水利施設の耐震性能照査を平成26年度から実施し、平成28年度までに事業計画を取りまとめ、平成29年度の事業採択を目指していると考えております。</p> <p>御要望にありました警報設備の整備につきましても、今後、貴町とともに国へ要望していきたいと考えております。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>「農業農村整備事業」促進と予算確保に関する要望 新たな農業・農村政策の展開により、農地及び農業用排水路等の基盤整備を行う農業農村整備事業は従来にも増して重要かつ早期取り組みが望まれております。しかし、平成26年度当該事業予算をみますと、国においては当初予算で前年度を若干上回っておりますが、従来（平成21年度）の予算額には程遠い状況となっております。県においても、平成24年度から減額傾向となっております。このような状況から、国に対しては予算確保についての要請を、県におかれましては予算の拡充など充実を図っていただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>新たな農業・農村政策による担い手への農地集積・集約を行うためには、農地や農業用排水路及び農道等の生産基盤の整備は不可欠と考えております。 よって、引き続き国に対して予算の確保を強く求めていくとともに、補正予算等も積極的に活用し事業を推進してまいります。 また、県予算については、県財政の厳しい状況により公共事業予算枠の縮小が続いておりますが、ほ場整備や水路整備等、地域の要望に応えられるように、予算の確保に努めるとともに、建設コストの縮減にも取り組み、効率的な事業推進を図っていきたいと考えております。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B
<p>農業基盤整備促進事業の補助対象枠の拡大に関する要望 本補助事業につきましては、当初30haを国に要望しておりましたが、内報では9,800千円（面積換算で6.53ha）という状況となっております。 当該補助事業につきましては、排水機能が低下したほ場環境の改善のための要望が数多くあることから、県を通じまして可能な限り補助対象枠が拡大されますよう、国へのはたらきかけをよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>農業基盤整備促進事業（旧農業体質強化基盤整備事業）につきましては、定額助成により暗渠排水や畦畔撤去による簡易な区画拡大等が実施できることから、全国的に要望が多く、H26年度要望額の3割以下の充当となっております。 貴町では県内でも先駆的に暗渠排水や区画拡大に取り組んでいただいております。担い手農家からの要望も多くあると伺っております。そうした地域からの要望に応えるべく、今後とも国に対し強く予算枠の拡大について要望してまいります。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>多面的機能支払交付金事業における交付金の交付時期に関する要望</p> <p>従来の「農地・水保全管理支払交付金制度」が「多面的機能支払交付金制度」に改正されたことによる交付要件等の緩和に伴い、本町においては、活動組織が従前の11組織から19組織増の30組織となる予定であり、町内全域において農地及び農業用施設等の保全管理体制が整備される見通しとなっております。</p> <p>なお、本町におきましては6月補正にて予算措置を行うとともに、採択申請等の諸手続きを行ったところでありますが、県のタイムスケジュールでは6月末締め申請の場合の活動組織への交付金の交付予定時期が9月～10月とされており、このような交付時期であれば、活動組織による活動費の立て替え等に伴う負担の増大が懸念されますので、活動への支障が生じないよう少しでも早期の交付となりますよう特段のご配慮をお願い申し上げます。</p>	<p>4月に県が提示した多面的機能支払交付金制度のタイムスケジュールは、採択申請から交付金の交付までに要する時間の目途を明示したものであり、実際には、申請があった都度、交付事務手続きを進めていきます。</p> <p>貴町から振興局に交付申請があった場合は、速やかに岩手県農地・水・環境保全向上対策地域協議会あて申請手続きを行いますので、よろしくお願いいたします。</p>	盛岡広域振興局	農政部	B